

長畝ふるさと通信

【2014年1月号】

■ 新年あけましておめでとうございます

昨年暮れに突如として打ち出された「新たな水田農業政策」は農政の大転換と言われるものでした。国が主導で進めてきた「減反政策」は5年後を目処に廃止され、個別所得補償制度で交付されてきたコメの直接支払交付金は26年度から半減し5年後には廃止されます。これによって産地間競争は激化し(おそらく価格も下がるでしょう)、販売力のない産地は淘汰されていくことが懸念されます。

生産効率の良い平野部では大規模化が進み、農地への新たな企業参入が始まります。高齢化した立地条件の悪い過疎地域では農業を継続することが困難になっていくかもしれません。これまで農業によって維持されてきた日本の原風景は大きく変貌するのではないでしょう。私たちはこれから5年後の姿を想像することすら出来ず、大きな不安を抱えています。



■ 寒さは厳しいものの、雪はありません



今年の佐渡は雪がありません。いつもの年ならこの時期の田んぼは雪が積もって一面銀世界のはずですが、ご覧の通り田んぼにも、奥の山々にも土が見えています。そのおかげでカラスの大群も田んぼに降りて餌を食べています。トキやサギたちも田んぼに降りたってゆったりとした時間を過ごしているようです。このまま春を迎えることはないと思いますが、今から田んぼの水不足が心配されています。

佐渡の田んぼの用水の多くはダムから供給されています。春になると一斉に田んぼに大量の水が必要となります。田んぼを耕し、田植えをし苗が生長する課程で水は不可欠なのです。冬に雪が積もり春に大量の雪解け水が山を下ってダムに貯まらなくては稲作に必要な水が不足する事になるのです。やはり降るべき時にきちんと降ってくれなくては農業は立ちゆきません。自然と農業は一体のものなのです。

■ 種籾の温湯消毒が始まりました



温湯消毒槽の水温は60度。ベルトコンベアに吊された種籾は10分間で消毒されていきます。人間には熱すぎる温度ですが見るからに気持ちよさそうで、思わず温泉に浸かる自分の姿を連想しながら作業をしています。仕事が一段落したら、温泉旅行にでも出かけてのんびりしたいものです。あっという間に春作業に突入してしまいますけど…

1月20日から種籾の温湯消毒が始まりました。平成20年からJA佐渡より業務委託されはや7年目を迎えました。1日6トン、全体で200トン近い種籾を1ヶ月強で処理していきます。今のところ雪が積もらないおかげで朝の除雪作業がない分、助かってはいますが、毎日休まず続く単純作業は根気が必要です。



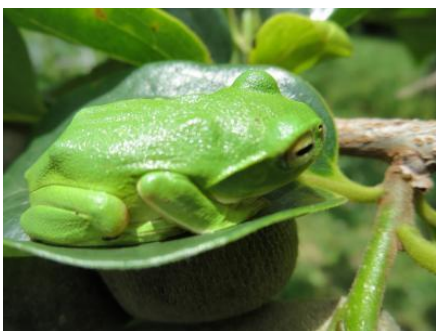
■ 農業機械の格納整備もこの時期の大事な仕事

年間を通して一番使われる「自走式草刈り機」をはじめ多くの農業機械はこのオフシーズンに丁寧に整備します。トラクターやコンバインなどの大型機械はもちろん、溝切り機や動力散布機など現代の稲作には欠かせないものばかり。年間のメンテナンスや償却費も馬鹿になりません。肝心の人間のメンテナンスはいささか乱暴なのがたまにキズですけど…



■ 4月から外税表示に

4月から消費税が増税となります。これまで消費税込みの「内税表示」でご案内してきましたが、4月以降は「外税表示」とさせていただきます。本体価格はこれまでと変わりませんので、増税分を新たにご負担頂くこととなりますがご容赦願います。詳しくは別紙のご案内をご覧ください。



大きな不安を抱えた26年のスタートですが、ふるさとを守り美味しいお米を作っていくことにブレはありません。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

<組合員一同>